

- 四 醫科用特種器械ノ檢定
- 五 學術的製品ノ提供
- 六 健康診査及衛生上ノ相談
- 七 特種疾病ノ豫防・診斷及治療
- 八 無料檢査及診療

此等ノ目的ヲ達成センガ爲メ、本院ノ事業ヲ大別シテ三部トナス、曰ク學術部、曰ク診療部、曰ク社會事業部是ナリ。各部ノ組織及内容ハ次章詳叙スル所ノ如シ。

本院ノ綱領ハ斯ノ如シ、而シテ院ハ元遠山椿吉單獨ノ經營ニ屬シタルヲ、震災後ノ復興營爲粗ホ完成シタルヲ機トシ、基礎ノ安定ヲ計リ、以テ斯業ヲ永ク後昆ニ遺サントシ、昭和二年三月財團法人組織トナレルモノナリ。而シテ役員・職員皆同好ノ士之ニ當ル、素ト是叢爾タル一研究所、時勢ノ推移ニ伴フテ今日ノ形態ヲナセル者、畢竟先輩ノ誘掖ト同僚ノ援助ニ由レルニ外ナラズ、冀クハ將來永ク此慶ヲ續ケテ斯業ノ益々發達センコトヲ。

## 第二 沿革

明治二十四年 四月一日、遠山椿吉、川上元治郎、佐藤保協同シ、東京市京橋區新肴町六番地成醫會ノ一室ヲ借りテ、實驗室ヲ設置シ、之ヲ東京顯微鏡檢査所ト命ケ、其主旨ヲ發表シ、規定ヲ設ケ、他ノ依頼ニ應ジテ醫學的諸種ノ檢査ヲ始メタリ、之ヲ本院ノ起原トス。○九月、本所ニ於テ結核菌簡便檢査法ヲ出版ス。○同月、研究規定、顯微鏡檢定手續ヲ定メ、又病原的細菌標本ノ頒與ヲ始ム。○十二月、本所ノ考案ニ係ル喀痰沈澱器ヲ器械舖松本儀兵衛ニ命ジテ製造發賣セシム。



創 立 者  
故 川 上 元 治 郎 君

同二十五年 二月、細菌檢査必携ヲ考案シ、松本儀兵衛ヲシテ製造發賣セシム。○四月、第一回講習科ヲ開ク、遠山椿吉、中島一可講師タリ、之ヲ本院教務ノ創始トス。○七月、卒業式ヲ行フ、爾後連年春秋二回開講ス。○同月、本所ヲ東京顯微鏡院ト改稱ス。○同月、本院卒業生丸東外數氏ノ發起ヲ以テ東京顯微鏡院院友會ヲ起シ、其ノ發會式ヲ行フ。



教 務 創 設 者  
故 中 島 一 可 君

同二十七年 一月、初テ種痘術講習科ヲ設置ス、三島通良、沼野孝太郎氏講師タリ、爾後顯微鏡講習科ト同時ニ開講スルコト、ナセリ。○二月、實驗室內規ヲ定メ、實習ノ爲メ公衆施種痘ヲ開始シ、又培養壤ノ頒與ヲ始ム。○六月、本院ノ製造ニ係ル顯微鏡的幻燈映畫及其說明書成リ、三原親之ヲシテ製造發賣セシム。○七月十日、雜誌「顯微鏡」第一號ヲ發刊シ、院友會機關雜誌ニ代用セシム、爾來年四回乃至六回發行ス。○九月、第六回講習科ヨリ山極勝三郎、入澤達吉、新井春次郎三氏ヲ講師トス。○十二月二十二日、入澤達吉、遠山椿吉外二三氏ノ發起ニ係ルまるびぎ一氏二百年紀念祭ヲ本院内ニ行フ、伊國代理公使其他内外朝野ノ貴紳會スルモノ百數十名。

同二十八年 四月、第四回内國勸業博覽會ニ本院事業ニ關スル諸書類及學術標本器械等ヲ出品シ、十二月褒證及賞牌ヲ受ク。○五月、飲料水ノ檢査ヲ始ム。○七月、都下虎列刺

ノ流行アリ、有志者ヲ招集シテ虎列刺病講習會ヲ開ク、入澤達吉及遠山椿吉之ガ講師タリ。○同月、院友會ヲ

東京顯微鏡學會ト改稱ス。



顯微鏡學會創立ニ盡力セル院友會  
故 丸 東 君

同二十九年 四月、母乳検査ヲ開始ス。○五月十日、上野公園ニ於テじえんなー氏一百年紀念祭ヲ舉行スルニ當リ、本院ハ種痘講習科規則ヲ額面トシテ出品ス。又本年露國皇帝戴冠式ニ際シ、同國ニ於テじえんなー氏一百年紀念祭ヲ舉行スルニ付本院種痘術講習科ノ主旨及規則ヲ卷軸トシ、日本赤十字社派出員岩井禎三氏ニ托シテ出品ス。○日清役ノ餘缺トシテ昨年一月來内地ニ回歸熱流行

ス、仍テ五月回歸熱講習會ヲ開ク、入澤達吉・遠山椿吉之ガ講師タリ。○六月、各種微菌ヲ約五千倍大ニ描キ十二枚ヲ一組トシ、製幅シテ微菌廓大圖幅ト稱シ豫約ヲ以テ有志者ニ頒ツ。○同月、檢温器保險檢定ヲ開始シ、同時ニ「醫科用檢温器檢定ニ就テ」ト題スル冊子ヲ發行シテ、檢定ノ要旨ヲ宣明セリ。○十月、事業擴張シ家屋狹隘ヲ告グルニ至リ神田區小川町ニ一ノ建物(私立學校進徳館跡)ヲ買受ケ改築ノ工ヲ起ス。○十一月十四日、改築工事竣工セシヲ以テ移轉ス。○十一月、短期講習科ヲ新設ス。○十二月十六日、開院式ヲ舉行ス、朝野ノ貴紳・學者會スル者百數十名盛況ヲ極ム。

同三十年 七月、研究科入學者十數名ニ達シタルヲ以テ特ニ同科ノ爲メ講義ヲ開ク、研究科講義ハ之ヲ以テ初メトス。  
同三十一年 十二月、うゐだーる氏反應ハ腸ちふす診斷上學者ノ是認スル所トナリタルヲ以テ同検査ヲ開始ス。  
同三十二年 十二月、第一回ベすと講習會を開始ス、醫學博士緒方正規、同山極勝三郎、横手千代之助、遠山椿吉講師タリ。

同三十三年 一月十六日ヨリ四日間第二回ベすと講習會ヲ開始ス。○顯微鏡檢定及廓大力檢定ヲ開始シ其主旨ヲ發表ス。

同三十四年 四月一日、本院創立十週年記念會ヲ舉行ス、會者滿堂盛況ヲ極ム。  
同三十五年 一月、從來ノ諸規定ヲ改定シテ之ヲ公告ス。  
同三十六年 二月、舊臘來初テ市内本所ニベすと患者ヲ發生ス、仍テ第三回ベすと講習會ヲ開ク、宮本叔、柴山五郎作、遠山椿吉講師タリ。○七月、内務省令ニ據リベすと試験室ヲ新設シ、其筋ノ認可ヲ得タリ。○十月、院長遠山椿吉、醫學博士ノ學位ヲ授與セラル。

同三十七年 本年ハ種痘術講習科ヲ休講シタリ。  
同三十八年 顯微鏡及種痘術講習科ハ從來春秋二期ニ開講シ來レルガ、本年ヨリ回数ヲ増加シ二月、五月及十月ノ三回トシ、種痘科ハ五月一回トシ、二月及十月ハ顯微鏡科ノミヲ開クコト、ナセリ。  
同三十九年 昨年ノ改正規定ニ依リ兩講習科ヲ開ケリ。  
同四十年 一月、保健科ヲ新設シ、公衆ノ依頼ヲ受ケ、健康診査ト衛生上ノ相談ニ應ズルコト、シ、其ノ主旨ヲ發表セリ。○七月、院長遠山博士東京市ノ命ニ依リ、歐米都市ノ衛生設備視察及萬國衛生及統計會參列ノ爲メ米國ヲ經テ歐洲ニ渡航ス。

同四十一年 三月、遠山院長任務ヲ終リ無事歸朝セリ。  
同四十四年 四月、院長遠山年來脚氣病ノ研究ニ從ヒ得タル結果ヲ實地ニ應用シ、且研究ノ資料ヲ得ンガ爲メ院內ニ脚氣病ノ診療ヲ開始ス。○同月十五日、本院創立二十週年記念會ヲ舉行ス。  
大正元年 十二月、開業醫師有志ノ團體本院ニ特約シテ診斷材料ノ検査ニ便セントノ議アリ、神田區ノ十七日醫會、淺草區ノ究明會先ヅ起リ、續テ全市ニ通ゼル一團體ヲ組織セントシ、月ノ八日各區ノ有志相會シテ規約ヲ

制定シ、之ヲ鏡友會ト名ケタリ。  
 同二年 一月、鏡友會ノ事務ヲ開始セリ。其規約ニ從ヒ本月十九日第一回集會ヲ催セリ、本會ノ創立ニ盡力シタルハ長田足穂、有賀立雄、内田彦雄、八田宏吉、田口篤信ノ諸氏ニシテ、皆本會理事ノ任ニ當レリ。  
 同三年 六月十八日、鏡友會集會第二回ヲ開ク。○同月、院務漸ク繁ク副院長ヲ置キテ院長ヲ補佐セシムルコトトナシ、石原巽氏之ニ任ゼリ。



鏡友會創立力盡ルセ  
 故院長田足穂君

同四年 四月七日、遠山院長俄カニ急性肺炎ヲ病ミ一時危篤ヲ傳ヘタルモ幸ニ好轉歸ニ向ヒ七月ニ入り漸ク起床シ、院務ヲ執ルニ至レルハ九月末ナリシ。○六月、院長年來ノ研究ニ係ル脚氣治療藥ヲ製出シ松本福松ヲシテ希望者ニ頒與セシム。○同月、本院屋舎改築ノ企アリ、昨年末來工學士福田重義氏ニ設計ヲ囑シ、本日七日ヲ以テ改築ニ着手シ、八月ニ至リ全部竣工シテ新屋舎ニ移轉シ了レリ。○九月、東北醫學士遠山菊介院務ニ從事ス。

同五年 一月、全院ノ事務ヲ學術部及診療部ニ別テ學術部ニハ從來施行ノモノノ外發賣標本類ノ價額ヲ改定シテ需用者ニ便ニシ、細菌製劑ノ頒與ヲ計リ、講演會ノ開催ヲ企畫シ、診療部ニハ二月十一日ヨリ狂犬病豫防注射ヲ開始シタリ。○二月、雜誌「顯微鏡」ヲ「東京顯微鏡學會雜誌」ト改名ス。○四月一日、本院創立滿二十五年ニ相當セルト院舎改築竣工ト併セテ紀念會ヲ開ク。  
 同八年 十一月、從來ノウリヒンノ内注射液ヲ改良シねあうりひんと命ケテ供給ス。  
 同十年 創立滿三十年ヲ記念センガ爲メ金杉、入澤、田中、清田、早野氏等百七十三人ノ發起ヲ以テ年ノ三月、紀念出版會ヲ起シ、遠山院長ノ著論二十八篇ヲ編纂シ「遠山博士脚氣病原因ノ研究」ト題シ十月出版完成シ、

之ヲ院長博士ニ贈呈スルコト、シタルニ、偶博士病ニ罹ラレタル爲メ贈呈式舉行ヲ延期セリ。○八月、先年石原巽氏退職以來副院長ノ位置空シカリシガ、這次院長家ノ女婿醫學士富田一太郎氏ヲ副院長ニ任ゼリ。  
 同十一年 十月十七日、大日本私立衛生會々堂ニ於テ本院創立三十年紀念會ニ併セテ紀念出版贈呈式（出版會主催）ヲ舉行シ、一方ニ本日ヨリ三日間本院ヲ開放シテ院ノ設備、作業ノ順序、業績等ヲ一般ニ縱覽セシメ、同時顯微鏡展覽會トシテ内外製顯微鏡ノ種類多數ヲ蒐集陳列シタルハ特ニ一般ノ耳目ヲ衝動シタリ。  
 同十二年 九月一日、關東大震火災ニ際シ本院ノ建物及内容ノ全部烏有ニ歸シタリ。○同月六日、麻布富士見町川住家ノ邸内ニばらつくヲ急造シテ作業場トシ、川住家ノ一室ヲ事務所ニ當テ、十月一日ヲ以テ一般業務ヲ開始シ、都下診斷檢査機關トシテ著シキ支障ナカラシムルヲ得タリ。  
 同十三年 六月、本院ノ事業逐年擴張スルニ從ヒ神田小川町ノ敷地ハ狹隘ニシテ復興新築ニ可ナラザルガ爲メ、罹災後物色ノ未麴町區三番町（後ニ九段四丁目ト町名改稱ス）ニ適當ノ地ヲ獲、本月ヨリ建築工ヲ起ス。○小川町燒跡敷地ニハ春來木造家屋ヲ建設シ、八月其工ヲ竣リ分院ヲ開始シ富田副院長主任トシテ茲ニ任ス。  
 同十四年 一月、院長ノ嫡子正路氏卒業歸宅シタルヲ以テ第二副院長ニ任ゼリ。○三月、工事中ナリシ本院ノ新築略ボ竣成シタルヲ以テ同十五日麻布富士見町ノ假院舎ヨリ新館ニ移轉セリ。○四月、千葉醫學士佐藤理太郎氏檢査部囑託ニ任ジ、病理組織檢査ヲ開始ス。○七月、れんとげん科ヲ新設、規程ヲ設ケ、藤浪剛一博士ヲ顧問ニ、科長ニ醫學士池田三千敏氏就任ス。○醫學圖書室ヲ設備シ、ソノ完成ニ努ム。○從來ノウリヒンノ外ニ這次新ニウリヒン液ヲ發行ス。○九月、從來ノ東京顯微鏡學會ト鏡友會トノ合同ヲ計リ、學會臨時總會及鏡友會理事會ニ於テ之ヲ決定シ、規則ヲ改訂シ、自今東京顯微鏡學會ノ一會トナレリ。○十月、新館ニ移轉後拮据致々内部ノ設備ニ努メ整頓ヲ告ゲタルヲ以テ、月ノ一日、復興新築落成紀念會ヲ舉行シ、引續二日間學會員全般及公衆有志ニ院内ノ展覽ヲナサシム。○十一月、東大眞鍋教授外數氏ノ後援ニ依リ、第一回れんとげん講習

會ヲ開ク、爾後連年之ヲ開講ス。

同十五年 十一月、醫學博士中本誠一氏診療部長ニ就任、同部ノ擴充ヲ圖ル。

昭和二年 二月、れんとげん研究科ヲ設ケ、斯學攻究者ノ入科ニ備フ。○三月八日、財團法人寄附行為申請許可ノ指令ヲ得、法人組織トナル(當時ノ役員其他舊「寄附行為」ニ在リ)。○同月、理事川原友治郎氏常務理事ヲ囑託セララル。○四月、第一回診斷検査法講習會ヲ開ク、爾後毎年之ヲ開講セリ。

同三年 十月一日、本院設立者、院長、東京顯微鏡學會長遠山椿吉博士遠逝ス。○遠山院長ノ誕生日モ、復興新築落成記念會ノ舉行サレシモ十月一日ナルヲ以テ本月本日ヲ本院ノ記念日ト制定セララル。○十二月、評議員會ノ決議ニ依リ清田政氏、遠山康氏ヲ理事ニ、細野順氏ヲ監事ニ選任ス。

同四年 三月、評議員會ノ決議ニ依リ副院長遠山正路氏院長ニ就任ス。○同時横手千代之助博士顧問ニ囑託セララル。○遠山院長歐米見學ノ爲メ二ヶ年ノ豫定ヲ以テ渡歐出發ス。○十一月、東京顯微鏡學會評議員會ノ決議ニ依リ横手博士ヲ會長ニ推薦ス。

同五年 一月、遠山院長すいす國べるん大學ヨリ「ドクトル・メヂチーネ」ノ學位ヲ授與セララル。○三月、新タナルれんとげん装置ヲ購入設置シ深部治療ヲモ行ヒ得ルニ到ル。○製薬部室狹隘ヲ告ゲ且ツ製薬方法ノ改良ニ伴ヒ、地下室ニ製薬室増築工事ヲナシ汽罐、働力装置其他ノ機械ノ設備ヲ完リ作業ヲ開始シタルハ八月ナリシ。

同六年 三月、前記製薬改良ニ依リ從來ノうりひん劑ヲねおうりひんと改稱ス。○十月、歐米留學中ノ遠山院長歸朝ス。

同七年 四月、傳染病關係検査ニ關シ實驗室ノ一部ヲ改造シ認可ヲ得。○六月二十五日、長ク副院長トシテ院ノ發展、經營ニ盡瘁セシ富田一太郎氏逝去ス。○神田小川町ノ分院ヲ廢ス。○九月、中本博士副院長ニ任セラ

ル。○十一月、東北醫學士遠山菊介氏検査部長兼診療部耳鼻科長トシテ再度就任ス。○診療部ニ耳鼻咽喉科ヲ



シセカ努テシト長院副ク長

君郎太一田富故

新設遠山菊介氏主任トシテ診療ヲ開始ス。○十二月、携帶用れんとげん装置ヲ購入シ出張往診ノ需ニ應ズルコトナレリ。

同八年 九月、つおんでつく氏妊娠反應試験ヲ創始ス。

同九年 十一月、製薬業務上ガそりん使用作業ノタメ本屋裏ニ建物ヲ新築シ、臨時化學室ト命ク。

同十年 六月、理事川原友治郎氏監事ニ、監事田中武助氏理事(常務理事)ニ選任セララル。

同十一年 八月、葡萄酒、かろちうむ其他ノ注射液ノ製造ヲ開始シ、主トシテ學會員ニ實費頒布ス。

同十二年 一月、醫學博士佐藤清氏検査部囑託(病理検査)ニ就任ス。

同十二年 九月、院長遠山正路氏日支事變ニ召集セラレ出征ス。○十月、本院製薬部業務漸ク擴張スルニ伴ヒ同



ルセ粹盡テシト員役クラ永

君郎治友原川故

部室狹隘ヲ告グルニ至リタルヲ以テ豫テ府下三鷹村ニ遠山正路、遠山菊介兩氏別途經營ニ係ル遠山化學研究所設立企畫ノ處完成セラルヲ以テ本月ヨリ製品ノ補充ヲ同所ヨリナサシムルコトナレリ。

同十三年 三月、濃厚注射液強カウリひんヲ新製發行ス。

同十五年 三月、日支事變ニ出征中ノ遠山院長無事歸還、臨時東京第一陸軍病院附被仰付。○六月、召集ヲ解除セラレ、七月ヨリ院

務ニ從事ス。○九月六日、財團法人設立ニ盡力シ、永ラク常務理事トシテ院務ノ處理ニ努力セシ監事川原友治

郎氏病歿ス。○同月十四日、和田金藏氏監事ニ選任セラル。○十月十一日、東京醫師會館ニ於テ本院創立五十年記念式典ヲ舉行ス。

### 第三 事業成績

本院ガ明治二十四年創立以來昭和十四年マデノ間ニ於テ舉ゲ來レル事業成績ノ全般ヲ概叙スレバ次ノ如シ、而テ統計中ノ震火災アリシ大正十二年ニ注意ヲ要ス。

#### 第一 教務

- 一、顯微鏡講習科ヲ開クコト（明治四十五年二月マデ） 四十八回
- 一、種痘術講習科ヲ開クコト（同四十三年五月マデ） 二十三回
- 一、速成講習科ヲ開クコト（大正元年中） 二回
- 一、臨時講習會ヲ開クコト 六回

内

- 明治二十八年七月 虎列刺講習
- 同 二十九年五月 回歸熱講習
- 同 三十二年十二月 第一回ベすと講習
- 同 三十三年一月 第二回ベすと講習
- 同 三十六年二月 第三回ベすと講習
- 同 四十三年四月 六百六號講習

- 一、醫學講習會ヲ開クコト（大正五年乃至同八年） 三回
- 一、復興新築後講習會ヲ開クコト（大正十四年乃至昭和十一年） 十七回

内

- 大正十四年乃至昭和九年れんとげん講習會 八回
- 昭和二年乃至同七年診斷検査法講習會 六回
- 昭和八年乃至同十一年診斷治療法講習會 三回

#### 第二 講習、研究者數

- 一、顯微鏡講習科（明治四十四年乃至同四十五年） 三一名
- 一、顯微鏡速成講習科（明治四十五年乃至大正元年） 一五名
- 一、臨時講習科（六百六號） 三三名
- 一、研究科（明治四十四年乃至大正四年） 三〇名
- 一、短期研究科（明治四十四年乃至大正四年） 五三名
- 一、研究科（大正五年乃至昭和十四年）

(イ) 細菌學科

(ロ) 放射線學科

計

- 一、講習會（大正五年乃至昭和十一年） 一一二名
- (イ) 醫學講習會 三名
- (ロ) れんとげん講習會 四七名
- 二二〇名